

【磐田財務事務所長賞】

「知らないと損する税の使われ方」

磐田市立向陽中学校 三年 竹内 嵩真

僕の家は十二年前に改築工事が行われたが、もとの築五十年の家の瓦の屋根が残っている。それは、改築工事にたくさんのお金がかかり、柱や壁などを改築するだけで、予算のほとんどを使ってしまったからだ。そのため、屋根が改築できなのまま、十二年の時が流れてしまった。その間には、強烈な台風の影響で瓦が落ちてくることもあった。

そんな中ある日の広報磐田（市が毎月発行している、その月の出来事や市の状況をまとめた冊子）で「住宅の瓦屋根の耐風診断・改修工事の助成制度が設立しました」という見出しを見つけた。この制度について、磐田市のホームページで調べると、気象災害への対応として、改正された建築基準法に適さない既存の住宅の瓦屋根の被害を減らすために、改修工事費の一部を負担するとうものだった。僕の家族は、この制度ができたことをキッカケに、市の提示した条件に適した工事店の診断を受けて、市に申請書類を出して助成金がもらえることになった。しかし、僕には二つの疑問があった。

一つ目は、市が助成金の給付をしていることだ。いったい市の財源は何なのかと考えていたのだ。このときの僕は、税金は国に納めていると思いついていたのだ。実際には、税金は国だけに納めているのではなく、県や市町村にも納めているのだ。調べてみると、税金は大きく分けて三種類あって、国に納める国税、県に納める県税、住んでいる市町村に納める市町村税がある。市町村税には主に、市町村民税、固定資産税、市町村たばこ税、軽自動車税、入湯税がある。このような税で市町村税を納めているので、市から様々なサービスが提供されているのだ。瓦屋根の改修工事などの助成金制度や市立病院、市立図書館などの公共施設は、すべて市税をつかって管理されているのだ。

二つ目の疑問は、助成金の申請にとっても手間がかかることだ。親が申請している様子を見ていて、申請書類に細かな事を記載して、診断も受けなければいけないため、とても手間がかかると思った。普通は、こんなに申請に手間がかかる、その制度を必要としていた人も諦めてしまうのではないかと思った。しかし、この考え方は違って、不正を防ぐためだということが分かった。申請の条件を細かくしたり、書類に細かなことを書いたりしないと、この制度を悪用して、不正にお金を入手する人がでるからだ。このような、厳重なシステムによって、しっかりと必要な人にお金が届くようになっていて素晴らしいと感じた。

このように、税金は税を納めている市民にしっかりと還元されるように、様々なサービスの充実や、徹底された管理がされている。しかし、サービスが行われていることを知らない、納税に対等なサービスが受けられない。普段から税の使われ方を知る事が大切だ。

【磐田市長賞】

「世界一の長寿国であり続けるために」

磐田市立福田中学校 三年 鈴木 良來

「日本ほど素晴らしい国はない。税金のおかげで今の生活がある。感謝しないとなあ。」

これが祖父の口癖でした。祖父は七十歳の時、ステージⅣのがんを患いました。最善な治療を長期間受け、病気は完治したものの、高額な治療費の支払いに不安を感じていました。ですが、税金で賄われる高額療養費制度という仕組みで治療費のほとんどが戻ってきました。祖父が口にする税金への感謝の言葉を聞き、私も幼いながらに「税金は大切」と感じていました。きつと、祖父の他にもこの制度のおかげで安心して治療を受けられた人もたくさんいるでしょう。だから私には、税の温かさが感じられます。

日本は現在、世界の健康寿命・平均寿命ランキングの一位です。私はその理由の一つに充実した医療制度があると考えています。日本の政府歳出のトップは社会保障です。この金額は、医療や介護の支援を含み、実に三十六兆円を超えています。日本では、医療・介護保険への加入が義務化されていたり、定期健康診断を受けられたりと医療制度が充実しています。だから私達は、金銭的な心配をせずに医療を受けることができます。一方、そうでない国もあります。アメリカ合衆国もその一つです。世界有数の先進国でありながら、健康寿命ランキングでは六十八位です。日本のような整った医療保障制度がないそうです。また、病院以外での長期的な介護には国からの支援がありません。やはり、手厚い医療・介護のサポートがあるからこそ、日本は世界一の長寿国であるのです。

しかし今後、日本は少子高齢化で働き手が減っていく一方、高齢者がどんどん増えていきます。つまり、国の税収が減っていくのにも関わらず、高齢者への医療費は増大していくということになります。少数の働き手で一人の高齢者を支えなければいけない社会になっても、今のような充実した医療制度を続けられるのでしょうか。高齢者は十分な保障を受けられるのでしょうか。このままでは課題が山積みです。

私は、祖父が素晴らしいと称賛していたこの国を世界一の長寿国として子孫の代まで続けていきたいです。それには、私達が自らの手で考え行動を起こして社会を変えていく必要があります。様々な世代が笑顔で共に暮らせる世の中にするために、やはり「税金は大切」です。だからこそ、未来を担う私達でこれからの税金の在り方について再認識してみませんか。

【東海税理士会磐田支部長賞】

「質の高い教育実現を支える税金」

磐田市立磐田第一中学校 三年 内野 優杏

税金はなんのためにあるのだろうか。私はこの問を考える上である日の授業を思い出した。

中学三年生になって間もない頃、英語の授業で外国と日本の学校の違いを探るということをした。取り上げていたのはルワンダという国の中学校。ルワンダでは先生や教室の数が足りず、午前と午後に分けて授業を行う。また、できるだけ多くの人に授業を受けてもらうために休み時間が無いことはめずらしくない。そして、給食もない。私は、この事実に驚いた。なぜなら、日本では十分な休息と給食での栄養が確保されているからだ。

また、先生が他の国の学校の動画を見せてくださった。そこに映し出されたのは、くたびれた教科書。これは一生懸命勉強したからだけではない。学校で何年も同じ教科書を貸し出しているからだ。さらには、一人ではなく複数人で使っている。もし、勉強への意欲があるのに学ぶ教材が無かつたらどうだろう。日本では勉強が嫌だと言う人が多いと思うが、そもそも勉強する環境がないという状況をこの機会に考えてみてほしい。日本のような充実した環境が当たり前ではないと気づけるだろう。

そして、多くの人は知っていると思うが日本では教科書が無料で支給されている。私は、この環境に慣れすぎていてルワンダのような学校のシステムに驚いてしまった。しかし、これは当たり前ではない。国の人が私達学生に期待をしてくれて払った税金があつて成り立つ環境なのだ。税金についてもっと知るべきと感じた私は、文部科学省のホームページなどで調べてみた。すると、学校の先生の給料は三分の一が税金で賄われていることが分かった。疑問を感じたが、その答えは世界と日本の先生の違いにあった。日本の先生は、授業だけでなく部活動や私達生徒の生活態度についても指導してくれる。しかし、多くの国の先生は授業を教えることのみが仕事であるようだ。つまり、日本では学力を伸ばすだけでなく社会に出たあとに困らないような人間性も育てているのだ。先生の給料の一部が税金で賄われていることに納得できるだろう。

税金は充実した学校生活を送るためにあるのだと私は考える。今、防衛費を増やすために増税をするなどで税金に対して良い印象を持たない人もいるだろう。しかし、恵まれた環境で勉強できる感謝の気持ちとともに、未来の学生が質の高い教育を受けられるように税金を納めることが大切だ。

【公益社団法人磐田法人会長賞】

「当たり前を支える大黒柱」

磐田市立福田中学校 三年 鈴木 唯夏

今の日本は、救急車を呼べばすぐに来てくれる、火事になっても消防車を呼べば、火を消してくれる、水道の蛇口をひねればきれいな水が出てくる、ゴミ収集車がゴミを回収しに来てくれるし、台風などで傷んだ道路も舗装してくれます。さらに、教科書は、学年が上がるごとに、学校で配られ、学校に行けば、自分の机や椅子もあり、冷暖房など、整備された幸せな環境で暮らせています。

しかし、私たちが当たり前のようにしている生活ができない人もいると、私は本を読んで知りました。そこで、もっと詳しく調べてみると、学校に行きたくても行けない人や、出てくる水がきれいではなく、何時間もかけて井戸に水を汲みに行っている人がいると知りました。このような格差をなくすために、私たち中学生には、あまり大きな事は出来ませんが、消費税となら関わる事ができています。消費税も、税金の一つです。この税金が、格差のない平等な世界に近付くために、少しでも役立てられればと思います。

今、私たちが当たり前前のようにしている生活は、当たり前前の幸せではないという事に気付かされました。また、その幸せは「税金」のおかげだということにも……。もし、税金がない世界になったら、救急車を呼ぶのにお金がかかったり、火事になっても火を消してくれなくなってしまう。ゴミが収集されないので、街がゴミだらけになったり、教科書や机、椅子などがなくなり、勉強ができない環境になってしまふなど、今、私たちが当たり前前になっている生活ができなくなっています。

「税金が高くなる」という、ニュースをテレビや新聞で時々見て、税金は悪い印象が強かったです。実際に、税金を無くそうと思っている人もいます。確かに、税金には、増税に伴い、国民が買いたい物を控えた結果、景気が悪化するなどのデメリットもあるかもしれません。しかし、税金は、私たちの生活を支えてくれている「なくてはならない存在」です。私たちは、税金と上手に付き合っていくことが大切だと思います。テレビや新聞でニュースを取り上げるときには、「税金が高くなって生活が苦しくなる」という、悪印象を強調するのではなく、「世の中をより良くしていくため、今の生活を維持していくための税金」という、好印象を与え、使い道などを強調していけばいいのにと私は思います。

世界には、色々な環境で暮らしている人たちがいて、今こうして当たり前前のように勉強できていることも税金のおかげであり、だからこそ、私たちの生活や学習が、「税金」によって支えられていることに感謝します。そして、将来、自分自身がしっかりと納税して、日本を支える大黒柱になれるように、今から、税金についてより多くのことを学び、社会に貢献するための努力をしていくことを誓います。

【磐田税務署管内青色申告会長賞】

「私たちが税金を払う理由」

磐田市立磐田第一中学校 三年 太田 莉都

私は漫画を読むことが好きです。最近では、ネットでも漫画を読むことができですが、私はよく単行本を買っています。しかし、令和元年に増税されて値段が上がりました。たったの二%の違いですが、何冊も買っているのでお金がかかり、私のふところが寂しくなっています。そこで、なぜ消費税が八%から一〇%に変わったのか、また消費税はどんなことに使われているのか気になったので、調べてみることにしました。

まず、消費税とは、世代の就労の状況に関わらず、商品の販売やサービスを提供してもらうときに国民に公平に課されるものです。税金がなかったら、ごみを回収する人がいない、子供が充実した教育を受けられない、公共サービスがないといった状況になってしまいます。ちなみに新型コロナウイルスが流行したとき、アベノマスクが配られたのも税金が使われています。これは、「税金を無駄遣いしている」と批判され、税金の使われ方が注目されるようになりました。

次に、消費税が一〇%になった理由ですが、それは、少子高齢化が進んでおり、現在の社会保障制度を将来の人達へ引き継ぐために、安定した財源の確保が必要だからです。社会保障制度とは、厚生労働省のサイトによると、国民の安心や生活の安全を支えるセーフティネットのことだそうです。年金、介護、医療といった人間が生きていく上で最低限必要なことを支えてくれます。

日本での増税は、反対意見ももちろんありましたが、国民の幸福度が高いデンマークの消費税は二五%です。教育費は幼稚園から大学まで無料、医療費も無料です。さらに失業者も補償してもらえるので、国民は生活が楽になっているのを実感でき、納得して高い税金を払えています。また、ハンガリーにはポテトチップス税、アメリカの一部の州はジャンクフード税、デンマークは乳製品の脂肪税、ロンドンでは渋滞税というユニークな税金もあります。ポテトチップス税は国民の肥満防止、渋滞税は渋滞解消などの目的もあり、国民の健康維持や環境保全にも役に立っています。

まだ、税金についてほんの一部しか調べていませんが、税金によって身近なことが支えられていることに気付きました。少子高齢化が進み、負担を将来の人達に先送りしている現状があり、増税はこれからも私たちが生きていくために必要なことだったと分かりました。デンマークのようにはいかなくても、自分たちの生活が少しでも楽になったらいいと思います。本屋で漫画を買うとき、コンビニでお菓子を買うとき、消費税が高くなって嫌だと感じていましたが、社会に貢献していると思つて肯定的な気持ちに変えていきたいです。